

夫は認知症 パートで支える



介護月8万 不安でつぶれそう

結婚して37年。夫(66)との会話がなくなつて、どのくらいたつだろ。

「『飯できたよ』」「『」

女性(61)からは話しかけられ。でも、返事はない。

女性は埼玉県内で、夫と30代の長男と暮らす。

夫は最近、ひとりで風呂に入れなくなつた。一緒に入り、シャワーで髪や体を洗つてあげる。朝のひびきを手伝うこともある。

若年性認知症。

そう診断されたのは約8年前。夫の新しい仕事を探そうと、一緒に近くのハローワークに行つた。パソコンでセミナーを検索しようとしながら、使い方が分からなくなつていた。

その数日後、夫婦で携帯をスマートフォンに変えた。夫に操作の仕方を教えたが、全く出来なかつた。

あわててかかりつけの病院へ。紹介された大学病院で正式に診断された。

まだ50代なのに。

仕事を通じて知り合い、24歳で結婚した。言葉数は少ないが、穏やかで子どもにも優しい人だった。

2年ほどで要介護1に認定され、デイサービスに週1~2回通い始めた。

女性は週5日、パートで働く。夫は無収入。パートでの月十数万円が夫婦の全収入だった。

デイサービスに通う日を増やしたかったが、お金を考へるとちゅうちょした。

パートを週4日に減らし、長男の手も借りて出来るだけ見守れるようにした。

夫の力不足にGALSをつけ、玄関には補助錠。それを壊して出ようとする時も

厚生労働省によると、65歳以上で認知症の人は約60万人(2020年)と推計されている。18~64歳で発症した「若年性認知症」は、約3万6千人いるとみられている。25年には高齢者の5人に1人が認知症になると見込まれる。

政府は19年の「認知症施策大綱」で、「予防」と「共生」を重視して施策を進めると決めた。一方、介護保

不安があった。先が見えたことですか?」と。ただ、毎月必要な介護費用は8万円ほど。若後も考えないと、まだ勤かないでいい。

「ずっと不安に押しつぶされそうになつてきました。経

済的な理由で必要なサービ

スが受けられない人を増やさないでほしい」(東郷隆

3年後 高齢者「5人に1人」

障害サービスの利用者負担は増加傾向。今回の参院選の公約で、自民は「持続可能な年金・医療・介護などの全世界社会保障構築に向け、計画的に取り組む」として、「これが最後の家族旅行になるかも」。初めて風呂付きの部屋に泊まつた。

夫は夜だけでなく、翌朝も健やかに起きる。朝のひびきを手伝うことがある。

若年性認知症。

も息子と一緒に風呂に入つた。「気持ちいいなあ」と

うれしそうに笑う夫の顔を久しぶりに見た。

久しくはすら足。転倒する危険も増してきた。

歩く度も何度もトイ

レに行くようになった。

歩く度も何度もトイ

レに行くようになった。